

予算決算委員会

9月9日の本会議にて議案第43号及び議案第44号の2議案と、議案第57号から議案第64号の8議案、合わせて10件の議案が付託された。付託同日、本委員会を開き、総務・文教環境・生活福祉・産業建設の4つの分科会を設置し、付託議案を各分科会に分担送付して審査することと決定した。各分科会審査後25日に本委員会を開き、各分科会委員長から審査報告を受けた。採決の結果、10件の議案は原案のとおり可決及び認定すべきものと決定した。

各分科会の審査概要の一部は以下のとおりです。

議案第43号「平成25年度鈴鹿市一般会計補正予算(第2号)」について

総務分科会

- (問) 公用車管理費において、寄付金を活用した電気自動車の車種選定や使用部署について。
- (答) ライオンズクラブより結成50周年記念事業として寄付された。三菱自動車製電気自動車のミニキャブミーブを1台で、管財営繕課が管理する集中管理車両として使用する。

文教環境分科会

- (問) 教育施設防災機能強化事業費について、今回の補正によって他の学校はすべて終了するのかについて。
- (答) 県の補助事業を活用した事業であり、今回県の補助事業が変更をされ、額も増額をされた。事業の内容としては、地盤の悪いところの屋内運動場においてガラス飛散防止フィルムを強化ガラスに入れ替える工事と小中学校の備品等に係る転落防止器具設置工事である。器具設置工事については全部の学校に広げて行う。

生活福祉分科会

- (問) 子ども・子育て支援事業計画策定業務委託料について、子ども・子育て支援事業計画には、市の独自の考え方や施策をどれほど取り入れる余地があるのか。
- (答) ニーズ調査を行い鈴鹿市におけるニーズを的確に把握し、ニーズに沿った鈴鹿市の支援事業計画を立てたいと考える。国から計画の中に必ず盛り込むべき内容の指針が示されているが、その上で鈴鹿市に合った、ニーズに沿った計画を作ることを予定している。

産業建設分科会

- (問) 新名神スマートインター整備関連事業費について、基礎資料を作成する体制等はどうなっているのか。
- (答) 24年度に新名神高速道路鈴鹿パーキングエリアスマートインターチェンジ地域活性化委員会を立ち上げ、委員会・幹事会を開催し、その中で利活用計画を作っていこうと動いている。全国レベルの情報を集める必要があるため、情報収集については専門のコンサルタント会社に委託し、事業の方向性の検討や計画書作成については、職員が携わり進めていく。

議案第57号「平成24年度鈴鹿市一般会計決算の認定について」

総務分科会

- (問) 木造住宅耐震補強工事等が、実際に行われた工事件数は。補強工事が必要となったのはどれくらいなのか。
- (答) 木造住宅無料耐震診断は198件、木造住宅耐震補強計画は47件、木造住宅耐震補強工事は39件、除去(撤去)が32件、民間(私立保育園)の建築物耐震補助が1件、集会所の耐震診断が1件。補強工事が必要となったのは、無料耐震診断とした198件全て。

文教環境分科会

- (問) 市立体育館のく体調査費の内容について。
- (答) 24年度の当初予算計上時には、体育館の全面に足場を作り調査を行うものであり、金額も大きなものであったため、高所作業車を利用することで設計をし直した結果、当初計上した予算よりも随分と安価に済ませることができた。高所作業車を利用することでの調査の質には全く影響はないと聞いている。